

田口 原叟好、琉球風呂へ好む、淨味作なり、大津清水彦兵衛所持、

百侘 原叟好、板風呂に好む、鑿取、手口に雷紋あり、唐金蓋、百侘文字花押もあり、道爺作、

達摩堂 原叟高桐院に、清巖和尚建立の達摩堂の香爐を釜となす、形ナデ四方、肩に玉縁あり、ヲ

ダレ、香爐耳、共蓋、清巖和尚の書にて、達摩堂の文字あり、今本哥郡山侯にあり、寫しは道爺作、數二

十、

角釜 原叟好、至て大ブリ、肩に玉縁あり、刷毛目クリ口、共蓋、常張、鑲、ヲダレ、前に覺々齋の文字あ

り、江戸大西九兵衛作、覺々齋の文字は直筆也、江戸に滯留中の好々、浪花竹浪庵傳來、稻垣休叟の事也、

累座富士 如心齋好、道爺作、鬼面羽釜、口に累座有、鑲付の上筋二ツあり、鳳皇風呂に合す、

雷聲 如心齋好、淨元作、廣口唐金蓋、鬼面鑲付、如心齋の書にて、雷聲の二字あり、後藤玄乘へ好遣

す、太腹釜數添ふ、略中

ダツマ 佐兵衛作、啐啄齋所持の蘆屋作、鯉の地紋の釜によりて好む、

刷毛目姥口 了々齋好、二代目佐兵衛作なり、鬼面鑲付、唐金一文字蓋、山梔子ツマミ、但し少庵

好の巴蓋の通にて、刷毛目なり、

鐵瓶 了々齋好、寶珠形、唐金フタ、二代目佐兵衛作なり、

〔茶道聞書集乙〕釜の肌、袖ハダ、ナマヅハダ、ヒキハダ、ハジキハダ、尻張は唐金蓋よし、阿彌陀堂は鐵

蓋よし、阿彌陀堂は肌のさわがしきをよしとす、尻張はこまかきを吉とす、尻張はけつかうなる

釜、阿彌陀堂はサビたる釜、

袖肌 橘袖の如き肌を云 鯨肌 なめらかなるを云 挽肌 轆轤の挽目有を云

ハチキ肌 あらきはだをいふ 肌の名猶あるべし

阿彌陀堂 本文鐵蓋よしとあれども、大かたは唐金蓋なり、有馬阿彌陀堂の僧、大釜望にて利